

•会報第9号の発行によせて•

本年5月に京都市美術館別館で開催される日本・アメリカ国際版画展に向けての特集となります。日本とアメリカの版画工房の違いや版画に対する考え方の違いなどを黒崎彰氏にお聞きし、また、山本桂右氏のアメリカ研修の滞在記を伺いました。そして、作家紹介では銅版画家の朝日みお氏を取り上げました。

それぞれ大変興味深い内容です。ごゆっくりとお読み下さい。



◆Paulson Press
Louisiana Bendolph
"Threes Squares"



◆Tamarind
Institute
Jim Dine
"Tools for cleeley III"



◆Segura Publishing
Company
Luis Jimenez
"Ball Rattlesnake"



◆Solo Impression
Alexander Ross
"Untitled"



◆Pyramid Atlantic
Margaret Prentice
"No Past No Future
in the Center I and II"

■特集：アメリカー版画の今一 黒崎 彰

■アメリカ研修報告 一前編一 山本 桂右

■作家紹介 朝日 みお

■掲示板

Printmaker's Association of Nishi Nippon

◆アメリカの美術のなかで、版画作家や版画品はどうのように見られているのでしょうか？

版画は絵画、彫刻と同じく、一つの制作メディアと考えられていることがアメリカ美術界では当たり前の事実で、美術家であれば誰もが試みて当然の造形手法なのです。むしろ他と異なる特徴は、版画が複数制作できる媒体であり、その特性を生かせば、自身の作品コンセプトを多くの人々へ伝えることに効果を發揮し、同時に広い購買層には満足感を与え、作家の収入を満たす点でも役立ちます。これら作家と美術愛好家、版画収集家の両者間を取り持つ役割を工房が果たしており、アメリカ作家の多くは今回の交流展で紹介するような版画工房を通して自身の版画を作成しています。

しかし一方で、版画しか制作しない作家がいることも事実で、アメリカに大変数多く存在する版画家たちは、アメリカ全土を幾つかのブロックに分けた版画家協会を作り、国際会議やアート

版画は絵画、彫刻と同じく、一つの制作メディアと考えられていることがアメリカ美術界では当たり前の事実で、美術家であれば誰もが試みて当然の造形手法なのです。むしろ他と異なる特徴は、版画が複数制作できる媒体であり、その特性を生かせば、自身の作品コンセプトを多くの人々へ伝えることに効果を發揮し、同時に広い購買層には満足感を与え、作家の収入を満たす点でも役立ちます。これら作家と美術愛好家、版画収集家の両者間を取り持つ役割を工房が果たしており、アメリカ作家の多くは今回の交流展で紹介するような版画工房を通して自身の版画を作成しています。

版画は絵画、彫刻と同じく、一つの制作メディアと考えられていることがアメリカ美術界では当たり前の事実で、美術家であれば誰もが試みて当然の造形手法なのです。むしろ他と異なる特徴は、版画が複数制作できる媒体であり、その特性を生かせば、自身の作品コンセプトを多くの人々へ伝えることに効果を發揮し、同時に広い購買層には満足感を与え、作家の収入を満たす点でも役立ちます。これら作家と美術愛好家、版画収集家の両者間を取り持つ役割を工房が果たしており、アメリカ作家の多くは今回の交流展で紹介するような版画工房を通して自身の版画を作成しています。

版画は絵画、彫刻と同じく、一つの制作メディアと考えられていることがアメリカ美術界では当たり前の事実で、美術家であれば誰もが試みて当然の造形手法なのです。むしろ他と異なる特徴は、版画が複数制作できる媒体であり、その特性を生かせば、自身の作品コンセプトを多くの人々へ伝えることに効果を發揮し、同時に広い購買層には満足感を与え、作家の収入を満たす点でも役立ちます。これら作家と美術愛好家、版画収集家の両者間を取り持つ役割を工房が果たしており、アメリカ作家の多くは今回の交流展で紹介するような版画工房を通して自身の版画を作成しています。

版画は絵画、彫刻と同じく、一つの制作メディアと考えられていることがアメリカ美術界では当たり前の事実で、美術家であれば誰もが試みて当然の造形手法なのです。むしろ他と異なる特徴は、版画が複数制作できる媒体であり、その特性を生かせば、自身の作品コンセプトを多くの人々へ伝えることに効果を發揮し、同時に広い購買層には満足感を与え、作家の収入を満たす点でも役立ちます。これら作家と美術愛好家、版画収集家の両者間を取り持つ役割を工房が果たしており、アメリカ作家の多くは今回の交流展で紹介するような版画工房を通して自身の版画を作成しています。

版画は絵画、彫刻と同じく、一つの制作メディアと考えられていることがアメリカ美術界では当たり前の事実で、美術家であれば誰もが試みて当然の造形手法なのです。むしろ他と異なる特徴は、版画が複数制作できる媒体であり、その特性を生かせば、自身の作品コンセプトを多くの人々へ伝えることに効果を發揮し、同時に広い購買層には満足感を与え、作家の収入を満たす点でも役立ちます。これら作家と美術愛好家、版画収集家の両者間を取り持つ役割を工房が果たしており、アメリカ作家の多くは今回の交流展で紹介するような版画工房を通して自身の版画を作成しています。

版画は絵画、彫刻と同じく、一つの制作メディアと考えられていることがアメリカ美術界では当たり前の事実で、美術家であれば誰もが試みて当然の造形手法なのです。むしろ他と異なる特徴は、版画が複数制作できる媒体であり、その特性を生かせば、自身の作品コンセプトを多くの人々へ伝えることに効果を發揮し、同時に広い購買層には満足感を与え、作家の収入を満たす点でも役立ちます。これら作家と美術愛好家、版画収集家の両者間を取り持つ役割を工房が果たしており、アメリカ作家の多くは今回の交流展で紹介するような版画工房を通して自身の版画を作成しています。

◆アメリカ展を企画することになった理由と緯を教えて下さい。

二〇〇五年のタイ展開催時期の頃から、多くの会員の皆さん、それに運営委員会委員の方々からの要請が強く、アメリカとの国際交流展開催の計画がはじまりました。

KYOTO 版画はこれまで中国、ブルガリア、タイと交流展を開催してきました。つまり、アジアを中心に戦闘の版画を紹介してきましたが、その姿勢は日本であまり知られていない版画や版画活動を一般の方たちにぜひ紹介したいと考えた結果でした。しかし、皆さんの中から現代美術、版画の活動で指導的な役割を果たして来た国、例えばアメリカなどの版画展を日本で開催可能かを問い合わせました。

二〇〇五年夏のこと、幸い有力な版画工房タマリンド・インスティテュートが持つネットワークを利用して、実力を持つ版画工房とそのディレクターに相談をかけ、どのような展覧会が日本で開催可能かを問い合わせました。

◆アメリカの美術のなかで、版画作家や版画品はどうのように見られているのでしょうか？



◆今回の展覧会図録は、アメリカ版画工房の存在も強く意識して構成されたのですが、日本の版画工房とアメリカの版画工房、双方の特徴の違いはあるのでしょうか？

フェアなどをほぼ毎年のように開催しています。版画が持つ表現上の特性に興味を抱き、それを生かして版画家たちは美術家とは全く異なる独自の作品を制作し、技術的・素材的な開拓も自ら力を注いでいるのです。この両側面の版画作品とその活動を今回の展示でお見せすることができると考えています。



特集

アメリカ 一版画の今



写真／右：ピラミッド・アトランティック版画工房内
左：ピラミッド・アトランティック外観
写真提供／山本桂右

がる版画工房の中から、地域的な特性とすぐれた実績を持つ五つの工房を選ばれました。各工房がそれぞれ七～八名の作家を推薦し、都合約八〇点の作品が並びます。この展示によって共同制作によるアメリカ現代版画の成果や実態に迫り、「コールレーションによる創造と表現の可能性を検討できたらと考えていますが、現在そのコンセプトに添つて図録の編集が進んでいます。

バブル期の頃、日本でも多くの版画工房が誕生しましたが、その後の景気の後退と共に工房数は大幅に減少、設備や機器の身売りにも苦労している状況と聞きます。この傾向はアメリカにおいてもあまり違ひではなく、版画工房の浮き沈みは画廊のそれと同じく世の常ともいえるでしょう。

ところで、工房にとって最も重要な要件は、優秀なディレクターの存在如何にかかっています。作家や作品の選定、高い表現技術の確保のみならず、豊かなアイデアや企画力、販売マーケットのネットワーク構築、それに加えて運営資金の調達ができる人物を必要としています。これらすべての要素が備わったディレクターを見付けることは簡単ではありませんが、フローニティア精神の伝統豊かなアメリカにはこの難事業に取り組み決してあきらめない若いフロンティアたちが、一人でなければすぐれたチームワークを作り、次から次へと生まれているといえます。この好きな世界だから頑張る、決してあきらめないという底なしの熱意が、日本とは多少性格を異にしている点かも知れません。

「日本・アメリカ国際版画展」ではその開催に併せ、代表的な工房ディレクター、出品作家を招請して講演、ディスカッションを中心にシンポジュームを開く予定です。この機会に元気なアメリカ版画工房の秘密を、皆さんでぜひ探つていただきたいと願っています。

タマリンド・インスティテュートは一九六〇年にロス・アンジェルスに設立されたリトグラフ専門の工房で、作品制作だけなくプロのプリンターを育成する機関としても広く知られています。一九七〇年からはニューメキシコ大学の所属となり今は現所長のマージー・デヴォンさんの指揮の下にアルバカーキーで活動しています。

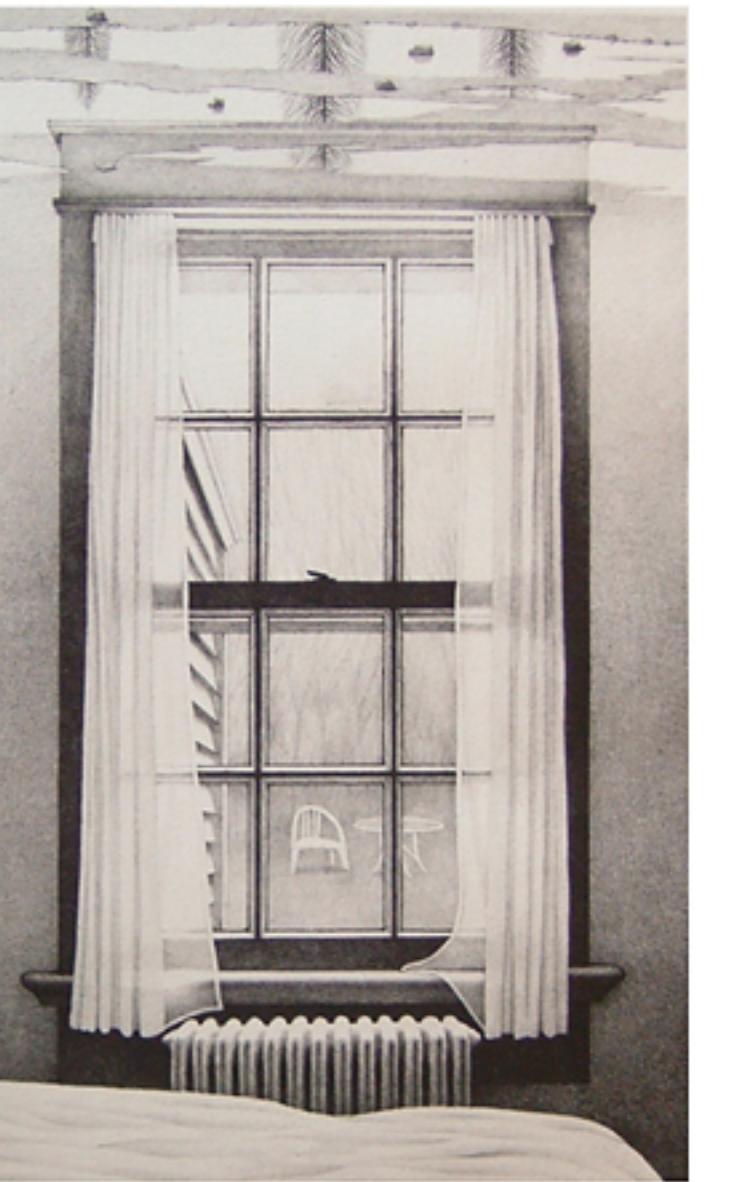
一方ピラミッド・アトランティック・アート・センターは一九七〇年に現所長のヘレ・フレデト・センターを訪れました。

今回の展覧会図録は、アメリカ版画工房の存続を強く意識して構成されたのですが、それを生かして版画家たちは美術家とは全く異なる独自の作品を制作し、技術的・素材的な開拓も自ら力を注いでいるのです。この両側面の版画作品とその活動を今回の展示でお見せすることができると考えています。

KYOTO 版画 2008

アメリカ研修報告 一前編

山本 桂右



山本さんは昨年の9月15日から12月3日まで文化庁の芸術家海外研修員としてアメリカニューメキシコ州タマリンド・インスティテュートとメリーランド州ピラミッド・アトランティック・アート・センターへ研修に行っておられました。

その報告を前・後編に分けてお伝えします。

作品：a window/2006年/ピラミッド・アトランティックで制作/リトグラフ/40×25cm



リックさんが設立した非営利の工房で、版画だけではなく紙漉き、製本、活版印刷、デジタルメディア、ギャラリーなどの設備を持ち、年間七〇回以上の講師を招いてのワークショップ、展覧会、スタジオレンタル、作品販売、一年一度のブックアートフェアの開催など、その活動は多岐にわたっています。ワシントンDCの中心部から地下鉄で二〇分ほどのシルバースプリングという駅のすぐそばにあります。

そして、この二つの工房の所長であるマージー・デヴォンさんとヘレン・フレデリック制作のお手伝いもしました。

この方法を参考にして二ヶ月間で四点の作品を制作し、その間、ヘレンさんが教授を勤めるジョージ・メーソン大学の大学院生二名（一人は日本人）にリトグラフを教え、コーコラン美術大学のリン・シュレス先生のリトグラフ作品の制作のお手伝いもしました。

ヘレンさんの親切さに答えなければ、と言う気持ちもあり二ヶ月間ほとんど主のようになんでこの版画室を使って制作を続けました。



さんのお宅は、外側は典型的なこの地方の先住民族の家のスタイルですが、内側は白を基調にしたモダンなつくりで、裏庭には半地下の大きなスタジオもありました。

翌朝の飛行機でワシントンDCへ飛び、シリバースプリングのホストファミリーのお宅へ訪問し、翌日からニューヨーク、ボストン、フィラデルフィアと各地の美術館を見て回りました。版画工房には大きなエッヂングプレスとリトープレスが一台ずつありました。常駐の指導者はおらず、時々レンタルで使用する人が来て制作したり、「ワークショップで外部から来た指導者が教室として使用している」という状況です。

リトの材料も当初は足りないものがいろいろありました。そこでワシントンDCに住む版画家のトレーナー・ビルサーさんに連絡を取り、アメリカでのリトの製版方法や薬品について私に教えてくれるよう手配し、もう一人の版画家ジニー・フリーストーンさんにも連絡して良い状態の製版ローラーや薬品類を持ってきてくれるようお願いし、その他いろいろと便宣を図つてくれました。私の顔を見るたびに「何か足りないものはない? 何か問題はない?」と気にかけてくれました。

トレーナーさんはワシントンDCのコーコラン美術大学の卒業生ですがタマリンドを卒業した人からリトグラフを習つたということで私が試し描きした版をタマリンドの方法で製版して見せてもらいました。私の顔を見るたびに「何が足りないものはない? 何か問題はない?」と気にかけてくれました。それは今まで私がやってきた方法とは様々な点で異なり、大変興味深いものでした。

この方法を参考にして二ヶ月間で四点の作品を制作し、その間、ヘレンさんが教授を勤めるジョージ・メーソン大学の大学院生二名（一人は日本人）にリトグラフを教え、コーコラン美術大学のリン・シュレス先生のリトグラフ作品の制作のお手伝いもしました。

ヘレンさんの親切さに答えなければ、と言つた気持ちもあり二ヶ月間ほとんど主のようになんでこの版画室を使って制作を続けました。



写真／上段／ピラミッド・アトランティック版画工房／付属ギャラリー／下段／マージーさんの自宅前／左から島野さん親子、コロンビアの作家、作家の友人、マージー・デヴォンさん／写真提供／上段／黒崎彰／下段／山本桂右

作家紹介

「作家活動とは何かを考える」をテーマに編集スタッフがお話を伺います。今日は朝日みおさんです。朝日さんは銅版画で制作されています。絵本の挿絵のような、ファンタジックな世界観は人を惹き付けてやみません。

(質問1) 朝日さんの作品は、なにかストーリー性のようなものが感じられます。実際に制作される時、朝日さんのなかで物語を設定されていらっしゃいますか?

良く同じ質問をされるのですが、実は元になるストーリーは何もありません。またどこかの国をモチーフにしてるのか?という質問も良く受けられるのですが、それもまったくありません。自分の中で密やかに物語を組み立てています。



作品 上段(左)化鳥使いIII／銅版／四〇×五〇センチ／二〇〇四 下段(右)天の樹の下で／銅版／五〇×六〇センチ／二〇〇五 下段(右)ある日樹の下で／銅版／二八×一八センチ／二〇〇三



略歴
立命館大学卒業

2007『日本現代芸術祭』
ヘイリ芸術村・韓国
『第11回国際ミニプリント・
蔵書票ビエンナーレ2007』
優秀賞受賞('05)
Museum of Ostrow Wielkopolski
ポーランド
『SIPA2007 ソウル国際エディ
ションアートフェア』('05、'03)
ソウル芸術センター・韓国
『あおもり国際版画トリエンナーレ
2007』('04、'01)
国際芸術センター青森
2006『9th Bienal Internacional de
Grabado CaixaNova』
スペイン

その他、個展・グループ展・公
募展に多数出品



朝日 Asahi
みお 銅版画
Mio

(質問2) 作品を制作するつえで、一番大事にされていることはありますか?

自分が楽しむ事です。銅版画は造るプロセスが長く、その間、自分が作り上げた出鱗目な人物や怪獣と、彼らが住む世界を楽しんでいます。

(質問3) 銅版画制作はプレス機、腐食液などを使用する為に特別な環境が必要ですが、朝日さんはどのような環境で制作されていますか?

このアトリエは二十四時間自由に作家に開放されています。ここには同じような銅版画の作家が多く在籍しています。私は独学で銅版画を直接、または間接に技法を学ぶ事ができました。現在この京都の会員の十人以上が凹凸に在籍しています。

(質問4) 今後の活動予定についてお聞かせください。

二〇〇〇年にこの会に参加させて頂くまで、全く一人で個展を中心活動してきました。美大を出ていないので、上記の凹凸のメンバー急以に外他の作家との交流もありませんでした。この会に所属して以来、世界が開けた感がありました。又、二〇〇五年度から日本版画協会の会員にいただきました。井戸から大海に泳ぎ出した気分で

(質問5) 朝日さんが影響を受けた好きな作家、作品を教えてください。

現在結構楽しく制作をしています。私の望みは、今、楽しく制作をしてるようになります。これからも制作を続けて行く事です。銅版画は身体にかなり負担があるので、「今と同じように」というのは、結構切実になります。漠然と太古のもの。五〇〇年以上経たもの。

掲示板

会報にお寄せいただいた京都版画展の出品者の展覧会、活動情報です。詳細は会場等へお問い合わせください。

●黒崎彰・斎藤修・平木美鶴
<現代版画三人展・大阪>
会期：2008年4月23日～29日
場所：大阪高島屋 美術画廊
大阪市中央区難波5-1-5
TEL：06-6311-1101

<現代版画三人展・横浜>
会期：2008年6月4日～10日
場所：横浜高島屋 美術画廊
横浜市西区南幸1-63-1
TEL：045-3111-5111

●斎藤修
<斎藤修木口木版展>
会期：2008年9月6日～21日
場所：ぎゃらりー岡南（富山市）
富山県富山市西大泉17-20第二浜忠ビルB-1
TEL：076-492-5850

<斎藤修展>
会期：2008年11月18日～30日
場所：わいアートギャラリー（大阪市）
大阪市北区堂山町15-17ACT III-1F
TEL：06-6311-5380

●角間貴生
<角間貴生版画展>
会期：2008年3月11日～23日
場所：平安画廊
京都市中京区寺町三条上ル

●後藤優子
<後藤優子展>
会期：2008年3月4日～3月9日
場所：ギャラリーすずき
京都市東山区三条通 TEL:075-751-0226

●夏目陽子
<夏目陽子展>
会期：2008年5月27日～6月1日
場所：ギャラリー青い風
〒606-8344
京都市左京区岡崎円勝寺91番地
TEL：075-752-0182

●山本桂右
<山本桂右展>
会期：2008年9月1日～9月6日
場所：養清堂画廊
〒104-0061
東京都中央区銀座5-5-15 TEL:03-3571-1312

<山本桂右展>
会期：2008年9月13日～9月28日
場所：ギャラリー白川
〒605-0822
京都市東山区下河原通八坂鳥居前下ル2上弁天町
TEL：075-532-2616

<山本桂右展>
会期：2008年10月14日～10月20日
場所：そごう神戸店 美術画廊
神戸市中央区小野柄通8-1-8 TEL:078-200-7110

●田島征彦
<田島征彦個展>
会期：2008年5月27日～6月8日
場所：ギャラリー・ヒルゲート
京都市中京区寺町通三条上る西側 TEL:075-231-3702

●平木美鶴
版画集【MITSURU HIRAKI Woodcut Print Works 1982-2007】出版
25年間に制作した200点の木版画掲載
2008年4月5日出版
出版元 セントポールギャラリー
A4サイズ 本文112頁／カラー96頁、一色16頁
販売価格 普及版5000円
限定版8000円（100部限定版付）
※以下の展覧会場で画集の販売をしています。

<平木美鶴版画展>
会期：2008年4月1日～4月7日
場所：徳島そごう5階美術画廊
〒770-8511 徳島市寺島本町西1-5 TEL:088-653-2111

<平木美鶴作品展>
会期：2008年4月26日～6月15日
場所：相生森林美術館
徳島県那賀郡那賀町横石字大板34 TEL:0884-62-1117

<平木美鶴版画集出版記念展>
会期：2008年5月10日～5月25日
場所：セントポールギャラリー
住所：群馬県前橋市2-43-2SKビル1F TEL:027-243-1741

編集後記

次号からの会報担当は福岡舞子に代わり鈴木勝成となります。福岡さん、3年間お疲れ様です！会報担当はツツミ、鈴木となりますので、皆様、宜しくお願ひ申し上げます。内容の充実の為、公募展情報を創愛させて頂きました。公募展情報は各美術系雑誌や公募展の紹介サイト『登竜門』（<http://compe.japandesign.ne.jp/>）などでお探し下さい。委員の皆さんからのご寄稿や、展覧会情報などを広く募集しておりますので是非お寄せ下さい。それでは、今後とも宜しくお願ひ致します。尚、掲載希望の記事、情報等は、会報担当か事務局までお願いします。会報担当 ツツミアスカ、福岡舞子